

事項	秋季に感染するりんご果実でのすす斑病対策は「9月15日頃」に防除剤を散布する		
ねらい	9月後半に気温が高く、かつ長雨が続いて、中・晩生種の無袋果実でリンゴすす斑病の多発生が懸念されるような場合でも、「9月15日頃」に防除剤を散布すると、安定した効果が得られることが明らかとなったので、参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 感染時期</p> <p>(1) 9月中・下旬の気温が平年並みの年は、9月後半の感染が少ない。</p> <p>(2) 9月中・下旬の気温が平年より高い年は、9月後半まで感染が続く。</p> <p>2 これまでの対策</p> <p>(1) 9月後半の感染が少ない年は、これまでの「9月10日頃」を目安にした防除剤散布でも安定した効果が得られる。</p> <p>(2) 9月後半まで感染が続く年には、この時期を目安にした防除剤散布では安定した効果が得難い。</p> <p>3 今後の防除対策</p> <p>(1) 「9月15～20日頃」の防除剤散布は年次変動が少なく、安定した効果を示す。</p> <p>(2) この時期の防除剤散布は支柱入れや除袋、葉摘みなどの着色管理と競合するので、これらの作業が本格化する前の「9月15日頃」を目安に防除剤を散布する。</p>		
期待される効果	秋季に感染するすす斑病の中・晩生種の無袋果実における防除対策として、より安定した効果が得られる。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成19年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」(<a href="http://www.maff.go.jp/nouyaku/">http://www.maff.go.jp/nouyaku/</a>)を確認すること。</p> <p>3 オースサイド水和剤及びアリエッティC水和剤は使用基準が収穫14日前までであるので、収穫期を迎える「つがる」などの早生種にかからないよう注意して散布を行う。</p>		
担当部署(担当者名)	青森県農林総合研究センターりんご試験場 病虫肥料部 (福土好文、雪田金助、赤平知也、対馬由記子)・県南果樹研究センター (荒井茂充)	対象地域	県下全域
発表文献等	<p>平成9～14年度 青森県りんご試験場試験研究成績概要集</p> <p>平成15、18年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場試験研究成績概要集</p> <p>平成10、12年度 青森県りんご試験場県南果樹研究センター試験研究成績概要集</p> <p>平成15、18年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場県南果樹研究センター試験研究成績概要集</p>		

【根拠となった主要な試験結果】

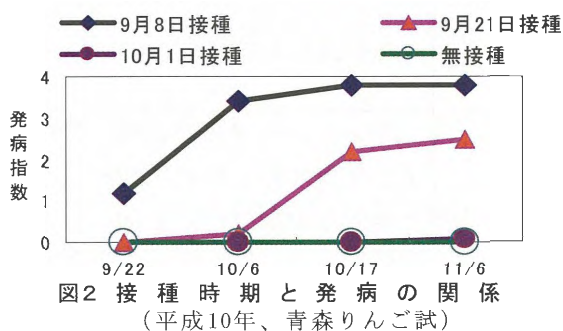
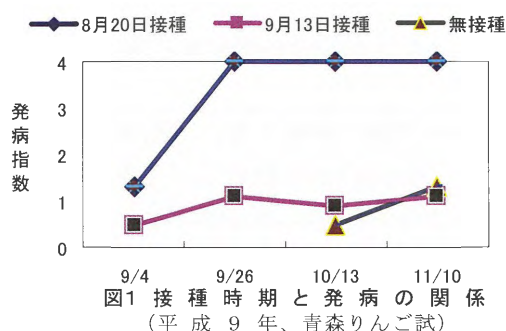


表1 平成9、10年における9月気温の  
 平年差(黒石：りんご試験場観測)

年次	最高気温			最低気温		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
9	0	-0.2	-0.2	+0.8	-1.5	-1.2
10	+1.0	+1.8	+1.5	-0.1	+2.2	+4.5

表2 これまでの「9月上旬」散布の防除効果  
 (平成10年、青森りんご試県南果研セ)

試験区	発病果率	発病度	防除価
アリエッティC水和剤 800倍	38.0%	13.8	68
無散布	91.3	43.0	-

(注) 1 「ふじ」、1区4樹を供試し9月8日に散布。  
 2 11月2日に各区150個の果実を調査。

表3 散布時期と防除効果の関係 (平成12～13年、青森りんご試、青森りんご試県南果研セ)

試験区	平12年(黒石A)		平12年(五戸)		平13年(黒石B)	
	散布月日	発病果率	散布月日	発病果率	散布月日	発病果率
アリエッティC WP 800倍	9/14	0%	9/18	2.7%	9/14	1.0%
	9/20	0	-	-	9/20	1.3
ストロビー DF 3,000倍	9/14	0	9/18	0	9/14	3.5
	9/20	0	-	-	9/20	1.0
オーソサイド WP 800倍	9/14	0	9/18	1.3	9/14	3.0
	9/20	-	9/22	0	9/20	1.3
無散布		46.4		65.3		14.8

(注) 1 「王林」又は「ふじ」、1区3樹を供試。  
 2 10月下旬～11月中旬に、1樹当たり約100個の果実を調査。  
 3 黒石Aはりんご試験場、黒石Bは黒石市石名坂、五戸は県南果樹研究センターでの試験。  
 4 WPは水和剤、DFはドライフロアブルの略。-は試験なし。

表4 「9月15日頃」散布の効果実証 (平成14～15年、18年青森農林総研りんご試、県南果研セ)

試験区	平14年(黒石B)		平15年(五戸)		平18年(板柳)		平18年(五戸)	
	散布	発病果率	散布	発病果率	散布	発病果率	散布	発病果率
フロントF 3,000倍	9/17	9.9%	-	-	-	-	-	-
ストロビーDF 3,000倍	9/17	7.3	9/15	0%	9/14	0%	-	-
オーソサイドWP 800倍	-	-	9/15	0	-	-	9/15	1.6%
無散布		66.9		38.1		33.0		15.2

(注) 1 「王林」又は「ふじ」、1区3樹～20aを供試。  
 2 10月下旬～11月中旬に1区3樹、1樹当たり約100個の果実を調査。  
 3 黒石Bは黒石市石名坂、五戸は県南果樹研究センター、板柳は板柳町夕顔関での試験。  
 4 Fはフロアブル、DFはドライフロアブル、WPは水和剤の略。-は試験なし。